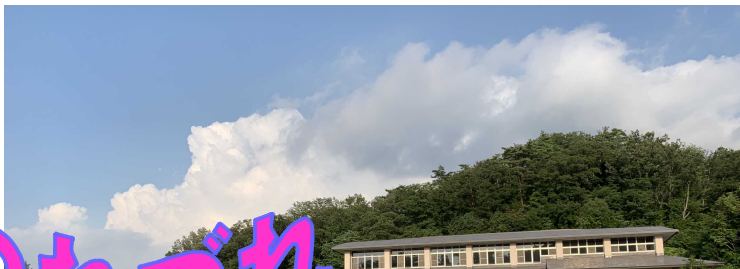


# 六所つれづれ



豊田市総合野外センター  
令和元年8月15日 12号

暦の上では秋を迎えました。折りしも台風10号が迫り、晩夏から初秋にかけての典型的な天候となっています。いつの間にか、田んぼの稲も穂をつけ、実りの秋を象徴しています。元気のいい猪は、あちこちに穴を掘っています。栗のいがもぐんぐんと大きくなっています。トンボもせわしく飛び交っています。そして、暑い、暑いを連呼していた六所にも、朝夕の風に秋の到来を思わせる「ひんやりとする空気」が漂い始めています。

本号では、夏休み中の利用のようすと、主催事業の報告をします。

## 豊田市保育課 新規採用職員研修会

半月も前のことになりますが、先月末、豊田市保育課新規採用職員研修会が本所で開催されました。この4月に保育士として新たに勤務に就いたみなさんの研修会です。

一泊二日の日程です。その間、多くの研修が盛り込まれ、実務と理論とが合致した充実の時間が流れました。

写真は、場内での自然観察のようすです。草木や昆虫の名前、観察のポイントなど、園児のみなさんに向けて行う「ワンポイント

アドバイス」を学んでいます。園児を引率してアスレチックや

ハイキングを行う際、道中の足下や草木を見て、「物知りな先生」の姿を実現するための研修です。



ちなみに、写真の麦わら帽子の男性は、センターの副所長です。また、研修の最後には、「がんばれ、保育士のみなさん」というお話をさせていただきました。この研修が役に立ち、六所を訪れる園児のみなさんに還元されることを祈ります。暑い中での研修、ほんとうにお疲れ様でした。

## 夏の風物詩… 流し素麺と、日除け

六所の夏といえば、代表格の流し素麺です。今年の夏も、いくつかの団体で行われました。さらに、もう一つ。広場に張られたテント。これも、アイデアですね。



「いきます」、「はいい」というかけ声が響き、流し素麺が始まります。水流はさほどありませんが、流す樋(と)いの角度があるため、麺は早く流れます。うかうかしていると、たちまち

通過です。流す人、受け取る人のタイミングが大切です。

この日は気温が高く、熱中症も心配されたため、炊事棟の中で行いました。開放感は薄れたものの、和気藹々とした雰囲気の中で、みなさん、満腹の笑顔でした。

もう一つの写真をご覧ください。この団体は、もう三十年以上の活動歴があります。六所の環境はもちろん、持ち込み機器の準備から夏の暑さ対策に至るまで、万全です。



何年も続けて来所いただく中、対応策として蓄積したアイデアだと思えます。上は、テント設置のようす、下は、入場行進のあと、チームごとに整列したようすです。暑さは大敵ですが、人間の知恵も大切ですね。

## 子ども会のおもともでも 連絡協議会の取組から

豊田市子ども会育成連絡協議会ジュニアリーダー育成委員会のみなさんの

取組を紹介します。

通称「市子連」のみなさんです。昨年の猛暑以来、子ども会の活動への提



案としてさまざまなことに取り組んでみえます。とくに、野外活動について、暑い中でも取り組むことができる「新スポーツ」の開発をすすめてみえます。暑さによる活動の自粛がすすむ中です



が、市子連のみなさんのチャレンジは、野外センターにとってたいへんありがたいことです。ありがとうございます。

## 8月…… ファミリーキャンプ便り

8月10日から14日かけファミリーキャンプが開催されました。小学生を含むご家族向けの事業です。暑さが心配される中でしたが、参加されたみなさんは元氣よくキャンプ生活を満喫されました。参加いただいたご家族のみなさん、



ありがとうございました。



台風10号の影響が懸念されましたが、天候に左右されることなく五日間の事業を無事終了することができました。暑さも心配される中、熱中症の注意を呼びかけ、水分補給と早めの休養をお願いしました。



ファミリーキャンプの基本は、入所から退所まで、家

族の計画を尊重することです。ゆっくり過ごすもよし、徹底的にキャンプ生活を送るもよし、キャンプ中の食事を全部野外炊事とするもよし。それぞれのご家族の思いや願いを最優先にする自主を重んじる活動です。

活動中、アスレチックと天体観察は野外センターのサービスとして提供しました。

何度も参加される「猛者」もみえましたが、初のチャレンジという家族もあり、キャンプ生活を楽しんでみえました。イベント参加や大型レジャー施設利用の夏休みも有意義ですが、自然

の中での野外炊事やテント泊も思い出に残ります。

暑さしのぎの水まきでは、わざわざ散水の中に飛び込み、全身びしょりになる子どももいました。お父さんやお母さんの叱咤激励で野外炊事に取り組む子も。そして、5年生で経験したキャンプ生活を保護者に説明する子もいました。同じ釜の飯を食う、一宿一飯の恩義など、旅にまつわる多くのことばがある中、キャンプ生活は奥が深いとあらためて思いました。

このファミリーキャンプについて、今後の予定をお知らせしますので、ふるってご参加ください。

### ○10月開催

・10月19日(土)~20日(日)  
※9月にホームページ掲載予定

### ○11月開催

・11月30日(土)~  
12月1日(日)  
※11月ホームページ掲載予定

いずれも、募集開始から先着順で受け付けます。10月及び11月の開催について、内容の詳細や問い合わせなどがありましたら、野外センターまで。秋には秋の楽しさが満載です。

◇豊田市総合野外センター

電話 0565-58-1388

このほかの事業案内についても、野外センターのホームページをご覧ください。

### 魂知和

「ご飯に芯がある」が通じない、という話題を書いた。そういえば、「ごわいご飯」の「強い」ということばも聞かなくなった。辞書を引いてみると、確かに「歯ごたえがある」という説明もある。マイコンの炊飯器は、どんな米でも、水加減の曖昧さがあっても、コントロールして炊いてくれる▲芯や強いということばが消えつつある。その背景には、IT機器の飛躍的な開発がある。水加減や米の種類にあわせてご飯を炊いたが、お焦げや芯ができた。それでは、明日のご飯は水を少なめにしよう、この米は水気が多いようだ、という判断があった。機器の発達は、そういう判断の必要まで消した▲地図を見なくなつたし、書店で買うこともない。代わりに、カーナビやスマホを利用する。目的地をセツトすれば、推奨ルートや最短距離、有料道路の利用まで提供する。地図の表示が切れたから車を止め、地図の続きのページを慌てて繰る必要もない。ましてや行く先々で、人に尋ねることもない▲地図を読む基本は、今、自分はどこにいるか、どの方向を向いているかを知ること。川あり、橋あり、案内表示ありの未知の世界へ入っていく不安や緊張の一方、併せてわくわく感もあった。おいしいご飯や快適ドライブは歓迎だが、強いご飯や分厚い地図も、どこか心の隅に残し、後世に伝えたいと思う。